

年間第 19 主日の説教

金 大烈 神父 2010 年 8 月 8 日 (日)

《天国を味わいながら生きましょう！》

主の平和！

ある修道士が夢を見ました。天国は楽しくて良いことだけの世界だと思いながら天国に行ってみたら、先輩の修道士たちが地上にいたときと同じように労働したり勉強したり祈ったりしていました。なにもかも同じなので、がっかりし天国に行く気がなくなってしまいました。すると「あなたは間違っている。天国の中に聖人たちがいるのではなく、聖人の中に天国がある。」という声を聞いて目を覚ましました。

きょうの福音(ルカ 12・32-48)の真ん中のところの内容は何ですか？ イエス様は何とおっしゃっていますか？「あなたがたも用意しなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。」いつ来るかわからない時のために準備しなさいとおっしゃっています。準備するものはなんですか？ 聖人の中に天国があるというように、天国というのは何かの状態です。私たちはこの状態で天国と地獄を行ったりきたりできるのです。今、天国の味を味わうようにしなければならないのです。皆さん、いま天国にいますか、それとも地獄にいますか？ もっと具体的に言うとうれしいですか？ 悲しいですか？ (「うれしいです。」)

生きているうちに天国の練習をしなければなりません。それは簡単です。あの人に会いたい。なんでもあげたい。おしませたい。これも天国です。地獄はその反対になるんでしょう。

私たち、いつまでも機会が与えられるわけではありません。朝目覚め、「眠い、眠い」言いながら、仕事に行かなきゃと仕方なく起きていたかもしれません。でも、今日もすばらしい一日が与えられたと思って起きれば、全然違う一日になります。その日に何があるかどうかの問題ではなく、今日という新しい一日に喜びと意味を探しながら生きようと決心をするなら、全然違います。感謝の心で迎える一日です。それができる人は天国の味がわかっているはずですよ。

準備しましょう。私とかかわる人が少しでも天国を味わえるように。私の微笑みを見て天国への熱望が持てるようにできたら・・・。

昨夜の夕ミサの後、私が夕食をとろうと思って部屋にあらうとしていたとき、ある信者さんが来て、大泉の大嶋さんのお母さん(青木トヨ様)が危篤だと告げられました。お腹が空いていたんですけど、すぐに病者の秘蹟を授けるために病院に行きました。病室には家族が並んでいました。お母さんは片方の目だけ開いていて涙をためていました。私を待っていたんだと思って、大きい声で「お母さん！」と呼ぶと、目を大きく開けてわかったようでした。「何も心配しないで下さい。お母さんは、いままでがんばって生きてきたんですから。」と声をかけました。病者の秘蹟をしてから、部屋にいた家族の人たちに、一緒に口ザリオを祈って下さいと頼んで帰ってきました。11時頃、亡くなられた

と電話がありました。青木トヨさんとは2ヶ月に1回位会っていました。ご聖体を持って行ってました。98歳のトヨさんは記憶力がすごくて、2年半前私と最初に会ったときの事をずっと覚えていて「金神父様ですね。金大烈神父様。」と韓国語的発音で言われ、いつも同じ話をしていました。

目が覚めたら、今日という新しい一日が与えられたことを感謝して、チャンスになる一日になるように意識したらよいのではないかと思ってみました。天国を体験しながら生きましょう。

ありがとうございました。